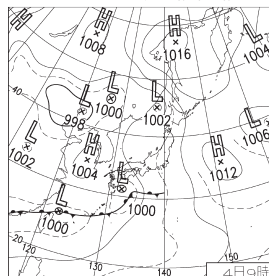


# 日々の天気図

— No. 89

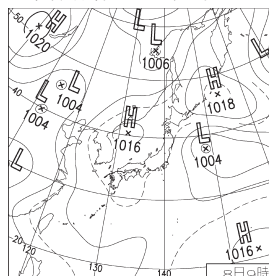
## 2009年6月

- 12日～16日、梅雨前線の影響で沖縄県大雨、伊是名村仲田81.5 mm、石垣市伊原間75 mm、那覇空港67.5 mmの1時間降水量。
- 28日～30日、梅雨前線の影響で九州大雨、大分県日田市椿ヶ鼻266 mm、鹿児島県指宿235 mm、熊本県山鹿市鹿北233.5 mmの1日降水量。  
(気象庁予報部予報課)



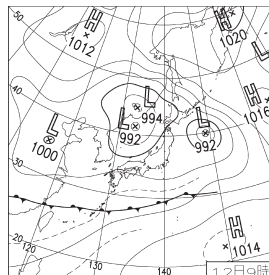
### 4日(木)全国的に曇りや雨

日本付近は気圧の谷に入り、全国的に曇って沖縄や北日本の一部では雨。北日本では上空に冷たい空気が流れ込んで大気の状態が不安定。秋田県東成瀬村で40 mm/1h。



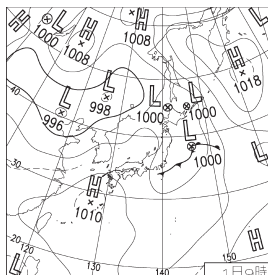
### 8日(月)西は晴れ、東は不安定

西日本太平洋側や東海は高気圧に覆われ概ね晴れ。東～北日本は上空の寒気の影響で大気の状態不安定。所々で雷雨。関東は終日曇りに覆われ、最高気温は4月中～下旬並の肌寒さ。



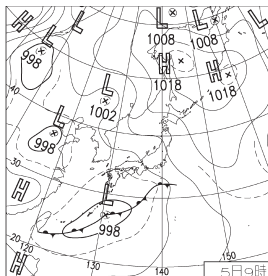
### 12日(金)南西諸島で前線活発

梅雨前線の影響で南西諸島では所々で非常に激しい雨。沖縄県久米島町謝名堂で65.5 mm/1h。北陸ではフェーンにより各地で真夏日。最高気温は富山市で32.6℃。



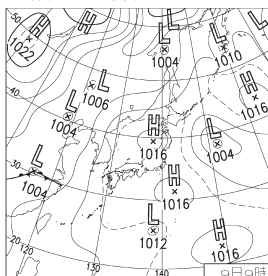
### 1日(月)宮崎市で真夏日

低気圧は三陸沖へ進み、本州は高気圧に覆われた。西日本を中心によく晴れ。宮崎市では真夏日。気圧の谷の通過で、北日本では曇りや雨、関東甲信の一部で雷雨。



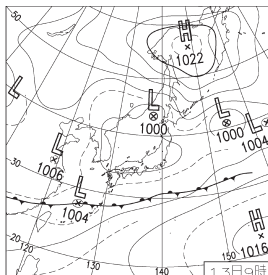
### 5日(金)本州の広範囲で雨

日本の南岸にある前線に発生した低気圧が北東に進んだ。このため西日本～東日本の太平洋側を中心に雨。南西諸島、九州で夏日。熊本県玉名市岱明で最高気温30.7℃



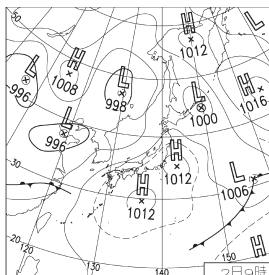
### 9日(火)西日本で梅雨入り発表

北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。曇りや雨となった九州南部、九州北部、四国、中国、近畿、東海で梅雨入りを発表。九州南部では平年より11日遅れ。



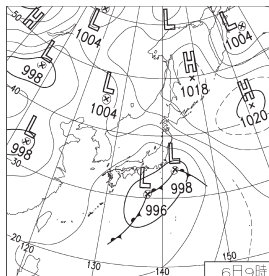
### 13日(土)沖縄で大雨続く

前線が停滞し、南西諸島は激しい雷雨が続く。沖縄県石垣市伊原間で75 mm/1h。本州付近は晴れの所が多いが、西日本～東北は寒気を持った気圧の谷が通過し、所々で雷雨。



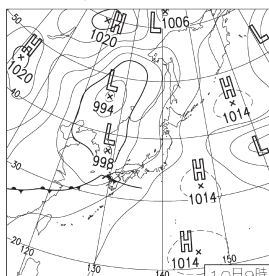
### 2日(火)本州日本海側で真夏日

日本の南の高気圧に覆われ、日中は九州と北海道の一部で曇りや雨の他は概ね晴れ。山越えの風が吹いた本州日本海側で気温が上がり、富山市で31.9℃、鳥取県米子市で30.8℃。



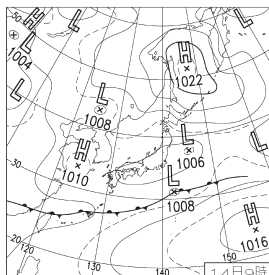
### 6日(土)東北太平洋側で大雨

日本の南の前線に低気圧が北東に進。東日本～北日本は雨や曇り、東北太平洋側では大雨。西日本では天気回復。岩手県釜石市で日降水量171.5 mm。



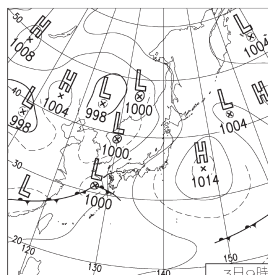
### 10日(水)東日本も梅雨入り発表

前線が中国大陸から日本の南海上までのび、東日本でも曇りや雨となり、北陸、関東甲信、東北南部で梅雨入りを発表。関東甲信では平年より2日遅れ。



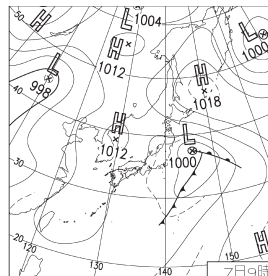
### 14日(日)東日本で雷雨

西日本で晴れた他は曇りで、東日本では上空の寒気の影響で所々雷雨。梅雨前線は、引き続き日本の南海上に停滞し、沖縄県伊是名村仲田で81.5 mm/1hの猛烈な雨。



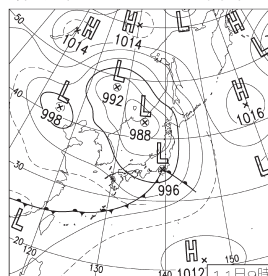
### 3日(水)鹿児島県で大雨

高気圧は日本の東に抜け、南から暖かく湿った空気が流入。北日本の一部で晴れた他は曇りや雨。低気圧に近い九州南部で雨が強く、鹿児島県屋久島町尾之間で日降水量147.5 mm。



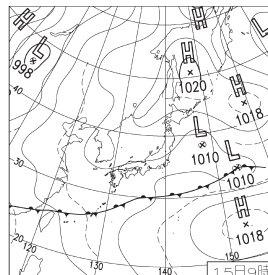
### 7日(日)関東などで真夏日

北日本は低気圧の影響で雨や曇り。西日本～東日本の日本海側では曇りや雨。その他は概ね晴れ。宇都宮市で最高気温が7月下旬並の30.1℃。名古屋市でシオカトンボ初見。



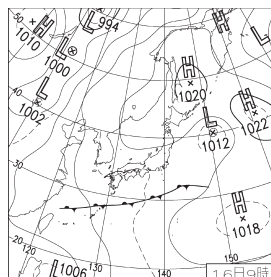
### 11日(木)東北北部も梅雨入り

関東から三陸沖へ進む低気圧と日本海北部の低気圧により東～北日本では雨。東北北部も梅雨入り、近畿以西では概ね晴れたが、南西諸島は梅雨前線の活動が活発で雨。

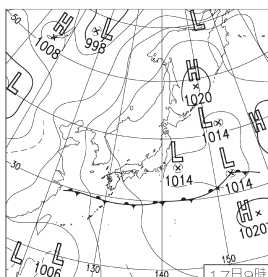


### 15日(月)沖縄で大雨

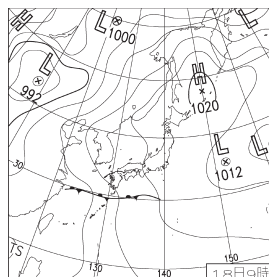
梅雨前線は、引き続き日本の南海上に停滞し、沖縄県で大雨。那覇空港では日降水量182.5 mm。関東は上空の寒気の影響で夜になって大雨。前橋市で37.5 mm/1h。



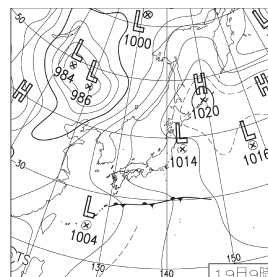
**16日(火)東日本 3日続きの雷雨**  
緩やかに高気圧に覆われた西日本で晴れた他は全国的に雨や曇り。関東では上空の寒気の影響で不安定となり午後から大雨。東京都江戸川区臨海で55.5 mm/1 h。



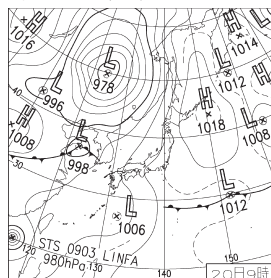
**17日(水)西日本は各地で真夏日**  
北海道は曇り、関東と東北の一部で午後大気の状態が不安定となり雨。南西諸島は曇りや雨。その他は晴れて西日本で暑くなり、最高気温は福岡県久留米市津福本町で34.4℃。



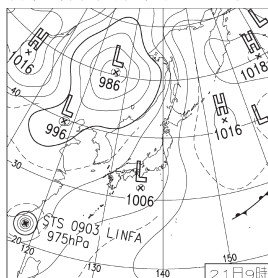
**18日(木)台風第3号発生**  
梅雨前線の影響で九州南部は曇りや雨。その他の西日本は晴れて、連日の真夏日となった所も。本州上空を寒気が通過、西～東日本の所々で雨や雷雨。



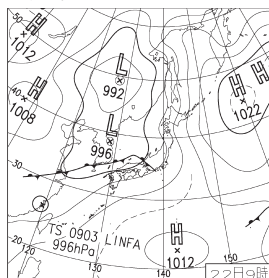
**19日(金)上空の寒気抜ける**  
北日本は曇り、南西諸島では前線や低気圧の影響で曇りや雨。沖縄県北大東空港で38.5 mm/1 h。その他は概ね晴れ。西日本では真夏日の所が多く、福岡県朝倉市で最高気温34.4℃。



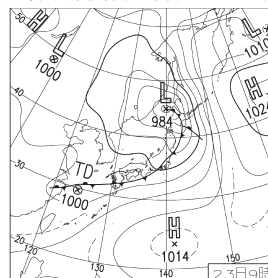
**20日(土)九州で今年初の猛暑日**  
北日本は曇り、西～東日本の日本海側は晴れ。最高気温は熊本県菊池市木柑子で35.7℃。大分県玖珠町で35℃と今年初の猛暑日。湿った空気が流れ込んだ四国、紀伊半島で雨。



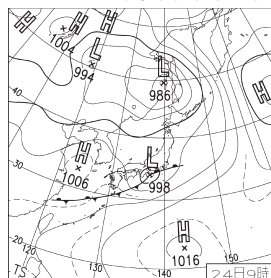
**21日(日)梅雨空の夏至**  
暖かく湿った南風の影響で全国的に雨や曇り。最高気温は沖縄～九州南部と北陸が7月上旬～中旬並で一部真夏日の所も。東北は7月中～下旬並で晴れた日本海側は夏日。



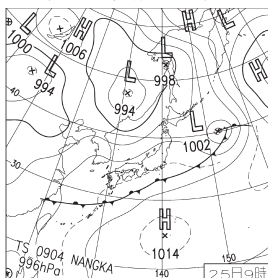
**22日(月)活発な梅雨前線**  
前線の南下に伴い、朝は島根県を中心に、夜は西日本～中部・北陸で大雨。石川県加賀市栢野で49.5 mm/1 h。最高気温は愛媛県西条市周布で36.4℃。台風第3号は熱帯低気圧に。



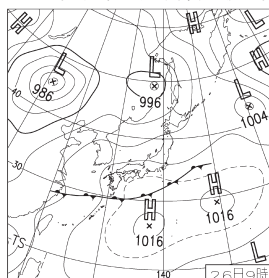
**23日(火)前線 本州を通過**  
活発な前線の影響で九州は激しい雨が続き、南部で日降水量が200 mmを超えた所も。本州は日中晴れて、関東以西は真夏日続出。群馬県館林市で34.4℃。台風第4号発生。



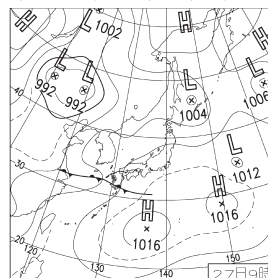
**24日(水)太平洋側で大雨**  
日本の南岸に停滞している梅雨前線上を低気圧が東北東進。西日本～東日本の太平洋側で大雨。和歌山県潮岬で66 mm/1 h。台風第4号はフィリピンを西北西進。



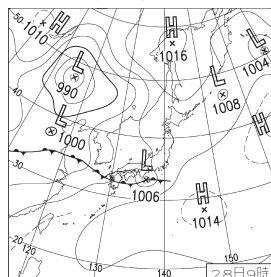
**25日(木)北日本でも真夏日**  
日本付近は沖縄を除き概ね晴れ。西日本と北日本の日本海側では真夏日の所も。札幌市手稲区山口で最高気温32.1℃は6月の記録更新。台風第4号は南シナ海を北西進。



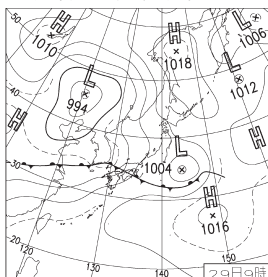
**26日(金)東京で真夏日**  
日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れて各地で気温上昇。最高気温は福島市で35.5℃。東京都千代田区は31.9℃で初の真夏日。上空に寒気が入った北海道では激しい雷雨の所も。



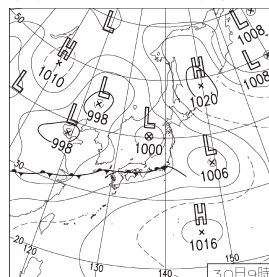
**27日(土)福島市 連日の猛暑日**  
九州南部は梅雨前線の影響で激しい雨。鹿児島県屋久島町尾之間で48 mm/1 h。その他は高気圧に覆われ概ね晴れて暑く、福島市で最高気温35.7℃。台風第4号は熱帯低気圧に。



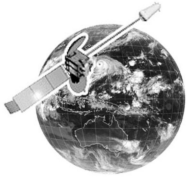
**28日(日)沖縄 梅雨明け発表**  
九州南部は前線が停滞して大雨。鹿児島県指宿市で日降水量235 mm。東海～関東南部も低気圧の影響で雨。東北北部は気温上昇。秋田県仙北市角館で6月の記録更新となる34.5℃。



**29日(月)九州北部～中国で大雨**  
梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州北部～中国で大雨。熊本県南小国町で63 mm/1 h。沖縄、東日本～北日本では概ね晴れて、東北では気温上昇。

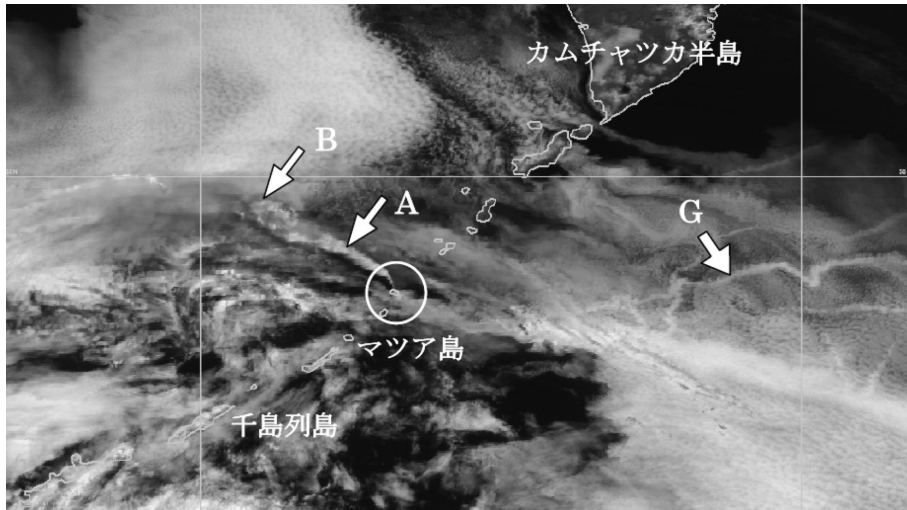


**30日(火)九州北部で大雨**  
九州北部～中国に前線が停滞。暖かく湿った空気の流入で前線活動が活発化し、九州北部で大雨。大分県玖珠町で6月の1時間降水量の記録更新となる56 mm/1 h。



## 今月のひまわり画像—2009年6月

### サリチェフ火山の噴煙



第1図 2009年6月16日09時（日本時間）の可視画像。

2009年6月12日頃から千島列島中部のマツア島にあるサリチェフ火山（サリチェフ・ピーク）で顕著な噴火活動が始まった。13日には噴煙の高さが約54,000 ft（約16 km）の成層圏にまで達したとみられ、10年に1回程度の大規模な噴火となった。

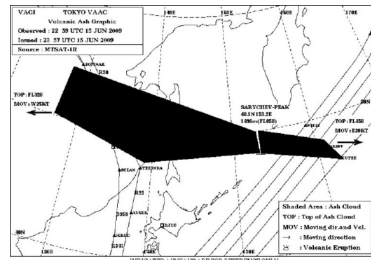
第1図は16日09時（日本時間）の可視画像である。○内の中心の島がサリチェフ火山で、矢印A、Bで示すように噴煙がオホーツク海の低気圧に伴う風により北西に流されている。第2図は同時刻の赤外差分（赤外1と赤外2の輝度温度の差）画像である。2008年5月号の当欄の黄砂の事例で紹介しているように、石英の放射特性は赤外1画像の波長帯（約11 μm）と赤外2画像の波長帯（約12 μm）で僅かながら異なるため、石英を多く含む火山灰が大量に飛散している領域は赤外差分画像では白く表示される。第2図の赤外差分画像では火山灰が白い領域（矢印C、D付近）として表現されている。また、12日頃からの顕著な噴火活動による火山灰が矢印E、F付近にあり、上空の風に流されて周囲に拡散している様子が確認できる。

航空機のジェットエンジンが火山灰を吸い込むと停止などの重大な事故が発生するおそれがあるため、気象庁は人工衛星の画像や国内外の火山観測、航空機からの報告などにより、火山の噴火が確認された場合には、火山灰の実況や拡散予測結果などを航空路火山灰情報として発表し、国内外の航空関係機関などに提供している。今回のサリチェフ火山の噴火では、日本付近からヨーロッパや北米に飛行する航空路にかかったため（第3図参照）、気象庁は3時間毎に情報を出して関係者に注意を呼びかけていた。

なお、第1図の千島の東海上に見える表面が滑らか



第2図 第1図と同時刻の赤外差分画像。



第3図 2009年6月16日08時57分（日本時間）発表の航空路火山灰実況図（黒色領域は火山灰）。

でやや白い雲域は海霧の領域であるが、その中に何本かの筋状の航跡雲（矢印Gなど）が見られる。これらの航跡雲は船舶や低空飛行の航空機が通過した後、水蒸気が凝結して生ずるものと考えられている。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）